

シンポジウム

シン・時代を美しく安全に生きる

座 長

永倉 みゆき / 静岡県立大学短期大学部 学部長

シン・時代を美しく安全に生きる

自分らしく災害に備える

池田 恵子／静岡大学 グローバル共創科学部 学部長・教授

災害に遭った人々は「被災者」と一括りされがちですが、被災の程度や苦しみ、そして必要とされる支援は、性別・性自認、年齢、障害の有無、健康状態、文化的背景や母語、家族構成、就労状況など多くの要因によって異なります。

実際に災害が起きたとき、すぐに現場で支援を始め、復興段階まで長期に関わるのは、地域にある組織、自治体、市民団体などです。専門性を持つ外部の団体の支援を待つより、誰もが多様性に配慮した支援の重要性を理解し、被

災者支援に取り入れていけるようになることが重要です。

では、災害・復興支援において多様性に配慮すると言っても、何をどこまで行えばよいのでしょうか。また、私たち市民は、各家庭や個人の状況に合わせて、どこまで備えておくべきなのでしょうか。

大地震が想定されている静岡県。多様なニーズを反映した防災や災害支援の実践事例に学び、自分らしさを大切にしながら災害に備えることについて考えます。



経 歴 1989-2000 青年海外協力隊、JICA技術協力専門家など国際協力事業に従事
2000 一橋大学大学院社会学研究科博士後期課程修了
2000 静岡大学教育学部講師
2007 ノーザンブリア大学開発と災害研究所客員研究員（英国）
2011 静岡大学教育学部教授
2015 国際ジェンダー学会会長
2020 日本学術会議第25期連携会員
2021 静岡大学副学長（学生支援担当）
2023 静岡大学グローバル共創科学部長・教授

シン・時代の食事デザイン：錆びない身体と心のつくり方

中村 美詠子／浜松医科大学 健康社会医学講座 准教授

私たちは生命を維持し、活動するために（成長期ではさらに成長のために）、日々食事をとります。バランスのとれた食事の摂取は健康に好ましい影響を与えます。しかし、人の食事にはさらに別の機能があり、幸福感、連帯感、安心感等とも関連しています。一方で、毎日の食に「追いつめられる」こともあるのではないのでしょうか。

今、個々の栄養素や食品でなく、食品群を組み合わせた「食事パターン」が注目されています。食事パターンを基

本として、「心地よさ」と「抗酸化・抗炎症」をキーワードに、錆びない身体と心をつくる食事について解説します。

コロナ禍において私たちの食は大きな制限を受けました。「黙食」がこんなにも味気ないものか…と実感された方も多いのではないのでしょうか。「会話」が食を彩るスパイスであることに改めて気付かされました。シン・時代の食は、美しく、安全に、幸せに生きるための食であることを目指したいと思います。



経 歴 1984 お茶の水女子大学家政学部食物学科卒業
1990 浜松医科大学医学部医学科卒業
1991 浜松医科大学衛生学講座助手
2002 博士（医学）授与（浜松医科大学）
2004 国立長寿医療センター研究所疫学研究部栄養疫学研究室長
2006 中部電力㈱浜岡原子力総合事務所産業医
2007 パナソニック健康保険組合産業医
2011 浜松大学健康プロデュース学部健康栄養学科教授
2012 浜松医科大学医学部医学科准教授

受 賞 歴 2017 第90回日本産業衛生学会優秀口演賞

シン・時代における遺伝カウンセリング

堀内 泰江／静岡社会健康医学大学院大学 ゲノム医学領域 教授

近年のゲノム医学研究分野の急速な進歩により、様々な疾患と「遺伝子」の関わりが明らかになり、病気の発症メカニズムの解明、治療・予防法の開発など私たちの健康にも深く関わってきています。医療の現場では、遺伝学的検査を実施し、遺伝情報に基づいて、治療や発症予防の適切な選択を行う時代を迎えています。私たちの遺伝情報を知ることは、病気の特徴やリスクを理解する鍵となります。一方で、遺伝情報を知ることによる悩みなど、遺伝に関す

る様々な問題が生じる可能性もあります。ここで、遺伝カウンセリングの役割が非常に重要となります。遺伝カウンセリングでは、遺伝的リスクや遺伝的特性に関する情報を、正確かつ分かりやすく伝え、個々の状況に合わせた最適な選択が自律的に行えるよう、医療と心理面から継続的にサポートします。この講演では、「シン・時代」における遺伝カウンセリングの役割について紹介させていただきます。



経 歴 2007 筑波大学大学院人間総合科学研究科博士課程修了 学位：博士（医学）
2007 筑波大学遺伝医学研究室 博士研究員
2009 慶應義塾大学医学部生理学教室 特任助教
2010 米国 ジョンスホプキンス大学医学部精神医学部門 博士研究員
2014 東京都医学総合研究所 主席研究員
2023 静岡社会健康医学大学院大学 ゲノム医学領域 教授
遺伝医療に関する臨床・研究、遺伝カウンセラー等遺伝医療に関わる人材育成に携わる。

移民女性の視点からみる「美しさと安全」

高畑 幸／静岡県立大学 国際関係学部 教授

日本は2017年から外国人材受け入れ拡大政策をとっており、在日外国人数は約300万人にのぼる。10万人以上の外国人が暮らす静岡県でも、移民たちが農業、食品加工、清掃、介護サービス等、私たちが日常的に消費している「美しさと安全」を提供している。近年は多文化防災、多文化介護、多文化終活等の言葉が普及し、外国出身者が生活者としてのライフコースをたどっている。

報告者らが50代以上のフィリピン人結婚移民78人を対象

に行った生活史調査によると、20代半ばに出稼ぎ労働者として来日し、日本人男性との結婚を経て20代後半で日本に定住したが、半数以上が日本人夫との離婚と死別を経験していた。多くが工場労働、介護、清掃等の非正規雇用を繰り返している。日本語の読み書きが難しく、医療や福祉に関する正しい知識を得ることが難しい。彼女らがなぜ存在するのかを日本の移民政策から読み解き、彼女らが安心して日本で老いるために必要な支援を考えたい。



経 歴 2001 大阪市立大学 文学研究科 社会学専攻 修了
2001 日本学術振興会 特別研究員（PD）
2006 博士（文学）大阪市立大学
2006 広島国際学院大学 現代社会学部 専任講師
2010 広島国際学院大学 現代社会学部 准教授
2011 静岡県立大学 国際関係学部 准教授
2018.10 静岡県立大学 国際関係学部 教授
受 賞 歴 2011.11 （社）社会調査協会 第1回『社会と調査』賞

中性脂肪を下げる

EPA・DHAのチカラ

機能性表示食品



◎化学調味料不使用

◎米油使用

液切り不要だから、
余すところなく
有効成分を摂取できます！

液切り
いらすの

しどり
ツナリ

株式会社
HOTGI **ホライフーズ** コーポレーション

〒421-3203 静岡市清水区蒲原 4-26-6
TEL (054)385-3131

伝統、そして未来へ

創業明治初年より、だしの専門メーカーとして天然調味料の技術革新をキーワードに事業展開を続けてまいりました。

マルハチ村松はこれからもおいしさの追求の為、たえず技術革新を行い、水産物の持つさらなる可能性を探求し、お客様のお役に立てるご提案をしております。

株式会社 **マルハチ村松**

本部：静岡県焼津市下江留 1001-1

TEL 054-622-7200 FAX054-622-4322

<http://www.08m.jp/>



高校生研究セッション

高校生研究セッション参加者一覧

No	学校名	部活動等の名称	氏名・学年	グループ分け	発表タイトル
1	静岡県立田方農業高等学校	ライフデザイン科 セラピーコース	安立 渚(2年)、小林 来瞳(2年)、 胡桃沢 優舞(2年)、杉本 優姫乃(1年)、 鈴木 優心(1年)、今野 姫菜(1年)	C	糸糸で繋ぐ人と人 ～認知症マフの製作と普及～
2	静岡県立清水東高等学校	理数科2年 SSH	立石 健太(2年)、原 一寿(2年)、 伊東 美海(2年)、竹井 颯太(2年)、 竹下 光(2年)、高橋 汰地(2年)	B	身近な物質を用いた光アップコンバージョンの 開発
3		理数科2年 SSH 血栓班	水上 はるか(2年)、山田 朱梨(2年)、 谷田部 瑠菜(2年)、谷田部 結菜(2年)、 加茂 修弥(2年)	C	流体力学から考える血栓の成長過程とその予防
4	静岡県立榛原高等学校	グローバル部	多々良 泰志(1年)、北西 快名(1年)、 宮城 理央(1年)、清原 湊那(1年)	D	海で地域を活性化
5		グローバル部	渡辺 鳳(1年)、鈴木 賢成(1年)、 松浦 芽衣子(1年)、村山 芽生(1年)、 吉永 花(1年)、紅林 怜奈(1年)	A	若者と地域をつなぐ
6	静岡県立駿河総合高等学校	課題研究(家庭科)	小林 未知(3年)	C	日本人に多い高血圧を予防することで生活習慣 病の発症を減らすことができるのか
7		課題研究(家庭科)	柿畑 妃菜(3年)、川島 璃音(3年)	A	子ども食堂の役割とその必要性 ～食の貧困の問題を解決するための子ども食堂 の役割は何なのか～
8		生徒保健委員会	原田 美雨(2年)、竹川 愛梨(1年)	B	朝食調査から考える シン高校生 ～次世代を生きる私たちの食事～
9	静岡県立天竜高等学校	天竜ラボ	松浦 昌汰(2年)、馬淵 百佳(2年)、 谷高 安美(2年)、若松 大真(2年)	D	中山間地域の農産品を使った「天竜おにぎり」 の開発・販売における目的と効果 一都市農村交流を視座として一
10		地球探究I	守屋 怜音(2年)、海野 亜美(2年)、 乗松 ひな乃(2年)、古村 成生(2年)、 鈴木 琉晟(2年)、水野 風(2年)	A	天竜を歩く
11	静岡県立科学技術高等学校	理数科	齋藤 圭(3年)、西井 千逸(3年)、 古見 光平(3年)	B	熱音響システムのエネルギー効率を上げよう
12		理数科	後藤 陽真(3年)、原 伊吹(3年)、 壬生 太朗(3年)	D	根粒の共生について
13	学校法人静岡理科大学 静岡北中学校・高等学校	科学部 魚班	山村 悌公(1年)、植木 悠太(1年)、 佐藤 侑磨(1年)、久保井 優太(1年)、 竹下 真那(1年)、増田 実結(1年)	A	巴川水系の水生動物相
14		科学部 ミドリゾウリムシ班	河俣 一真(2年)、浅井 涼太郎(1年)	B	異なる波長の光を照射すると変化するミドリゾ ウリムシの光応答
15		科学部 土壌班I	細澤 直起(2年)、一瀬 光(2年)、 豊平 悟史(1年)、菅ヶ谷 真(1年)、 佐藤 華江(1年)、森 優姫(1年)	C	瀬名地域の土壌無脊椎動物：土地利用状態と植 生により変化する局所群集構造
16		科学部 土壌班II	大橋 隆人(2年)、吉野 琉惟(2年)、 山口 響輝(1年)、吉川 芽吹(1年)、 宮田 敦矢(1年)、嵯峨 壮太郎(1年)	D	巴川水系長尾川堤防敷と麻機遊水地に生息する 動物群衆
17	学校法人静岡理科大学 星陵高等学校	星陵ラボ フードサイエンス カゼインプラスチック班	安藤 花桜(2年)、大崎 照夏(2年)、 加藤 音(2年)、加藤 稟子(2年)、 神尾 しおり(2年)、鈴木 莉乃(2年)、 稲垣 陽大(1年)、杉崎 理留(1年)	D	牛乳によるカゼインプラスチックについて
18		星陵ラボ フードサイエンス カテキン班	内田 暖乃(2年)、大槻 姫華(2年)、 稲毛 葉奈(2年)、後藤 美雪(1年)、 村松 翠(1年)	C	カテキンの効能
19		星陵ラボ 航空工学班	吉田 勇輝(2年)、佐野 司馬(2年)、 護持 瑛友(1年)、小川 好葉(1年)、 小川 怜菜(1年)、仁木 慶一郎(1年)	B	火薬ロケットの重心位置と飛行能力について
計	8校、19団体				
Aグループ：堂園俊彦コメンテーター Bグループ：黒野暢仁コメンテーター Cグループ：佐藤洋子コメンテーター Dグループ：江木正浩コメンテーター					

(参加者は都合により変更になる場合があります。)

No. 1	
発表タイトル	毛糸で繋ぐ人と人 ～認知症マフの製作と普及～
学校名	静岡県立田方農業高等学校
グループ等の名称	ライフデザイン科セラピーコース
参加生徒名 (学年)	安立 渚(2年)、小林 来瞳(2年)、胡桃沢 優舞(2年)、 杉本 優姫乃(1年)、鈴木 優心(1年)、今野 姫菜(1年)
発表内容の要旨	<p>ライフデザイン科セラピーコースは農業を福祉に活用する「園芸福祉」を中心に幼児から高齢者、特別支援学校と連携して実践的な学習をしています。2018年より函南町地域包括支援センターと連携し、認知症の方とその家族や地域住民が園芸を楽しみながら交流できる認知症カフェ「ふる～るカフェ」を本校実習室で年間7回実施開催しており、本年度で5年目となります。このような活動の中で昨年10月から「認知症マフ」の製作と普及・広報活動に取り組み始めています。認知症マフはイギリス発祥の毛糸で編んだ筒状のもので、不安やストレスのある人の落ち着かない手を温かく包み込み、心地よい触覚や視覚による刺激が得られ、またマフの暖かい色、柔らかい手触りによる心地よい癒しの効果から心と体の緊張を解きほぐし、安心感が得られ、周囲の人とのコミュニケーションのきっかけにもなるものです。</p> <p>現在、認知症マフ製作・普及活動グループ「チーム そわん」として、地域の方々と一緒にマフを製作と普及活動しています。</p> <p>今後の取り組みとして認知症マフを継続的に製作し、病院や介護施設や在宅介護などで活用してもらい、あわせて高校生として認知症マフの有用性を広く発信したいと考えています。</p>

No. 2	
発表タイトル	身近な物質を用いた光アップコンバージョンの開発
学校名	静岡県立清水東高等学校
グループ等の名称	清水東高校理数科2年 SSH
参加生徒名 (学年)	立石 健太(2年)、原 一寿(2年)、伊東 美海(2年)、 竹井 颯太(2年)、竹下 光(2年)、高橋 汰地(2年)
発表内容の要旨	<p>光アップコンバージョンとは長波長(赤色)の光を短波長(紫色)の光に変換する技術である。この技術が発展することで脱炭素につながる光触媒の効率を上げることが出来る。我々はこれを学校にある身近な物質で起こすことを目的とした。</p>

No. 3	
発表タイトル	流体力学から考える血栓の成長過程とその予防
学校名	静岡県立清水東高等学校
グループ等の名称	清水東高校理数科2年 SSH 血栓班
参加生徒名 (学年)	水上 はるか(2年)、山田 朱梨(2年)、谷田部 瑠菜(2年)、 谷田部 結菜(2年)、加茂 修弥(2年)
発表内容の要旨	通常医療臨床現場においては血栓ができて医療処置を行う段階で血栓を観察することとなり、血栓がどう成長していくかを考察する研究は稀である。本研究は血栓のできていく過程に着目し、血管内で血液がどのような場合にどのように鬱滞を作っていくかを調べた。心臓を灯油ポンプを用いて代替し、チューブで代替した血管で心拍数や、血栓のきっかけとなる鬱滞の粘性等を変数として様々なケースを想定して実験を行った。

No. 4	
発表タイトル	海で地域を活性化
学校名	静岡県立榛原高等学校
グループ等の名称	グローバル部
参加生徒名 (学年)	多々良 泰志(1年)、北西 快名(1年)、宮城 理央(1年)、 清原 湊那(1年)
発表内容の要旨	今、私たちは海の近さを強みに、地域の様々なボランティアに参加して、地域の人たちと関わっているいろいろな世代の意見や考え方を理解しようとしています。そのボランティア活動を通して、どんな世代にも楽しめるような環境や安全に配慮したイベントを1年後に開催したいと考えています。結果として、SDGsの11番である住み続けられるまちづくりをという目標に貢献したいと考えています。

No.5	
発表タイトル	若者と地域をつなぐ
学校名	静岡県立榛原高等学校
グループ等の名称	グローバル部
参加生徒名 (学年)	渡辺 凰(1年)、鈴木 賢成(1年)、松浦 芽衣子(1年)、 村山 芽生(1年)、吉永 花(1年)、紅林 怜奈(1年)
発表内容の要旨	<p>私達は地域の魅力を地域の人に伝え、豊かな環境を守っていけるように取り組んでいきたいと考えています。主なターゲットとしては、これからの地域を担っていく若者と考えています。そのため、若者が親しみやすいゲームを使って、地域への関心を高めるため、プロジェクトメンバーはプログラミングを学んでおります。美しく豊かな地域を私達の手で守り魅力を高めていくことが私達の目標です！</p>

No.6	
発表タイトル	日本人に多い高血圧を予防することで生活習慣病の発症を減らすことができるのか
学校名	静岡県立駿河総合高等学校
グループ等の名称	課題研究(家庭科)
参加生徒名 (学年)	小林 未知(3年)
発表内容の要旨	<p>日本人は諸外国と比較し、高血圧症が多く高血圧から他の生活習慣病発症の心配がある。そこで高血圧症を予防し、生活習慣病へ移行させない食生活について探究している。現在高校3年生とS型サービス利用者の高齢者に塩分摂取に関するアンケート調査を行った。その結果を踏まえ、高校生には高血圧症予防を提案し、高齢者には日常の食生活の注意事項について情報を発信していきたいと検討している。</p>

No.7	
発表タイトル	子ども食堂の役割とその必要性 ～食の貧困の問題を解決するための子ども食堂の役割は何なのか～
学校名	静岡県立駿河総合高等学校
グループ等の名称	課題研究（家庭科）
参加生徒名 （学年）	柿畑 妃菜（3年）、川島 璃音（3年）
発表内容の要旨	子ども食堂の社会的役割や精神的役割について調査し、子ども食堂のボランティアに実際に参加した。子ども食堂にはNPOに所属している子ども食堂と、していない子ども食堂があるが、どちらも「子どもの居場所づくり」を目指し、熱意をもって運営されている。子ども食堂の実態や役割、必要性をより多くの人に知ってもらい、周囲の人からの協力を得たい。そしてSDGs目標のうち1.「貧困をなくそう」2.「飢餓をゼロに」3.「すべての人に健康と福祉を」へ貢献していきたい。

No.8	
発表タイトル	朝食調査から考える シン高校生 ～次世代を生きる私たちの食事～
学校名	静岡県立駿河総合高等学校
グループ等の名称	生徒保健委員会
参加生徒名 （学年）	原田 美雨（2年）、竹川 愛梨（1年）
発表内容の要旨	本校では朝食調査を定期的に行っている。朝食摂取率の他に、朝食の食事内容について調査をしている。今回、過去5年間の調査データを検証した。そして5年間の推移から課題を見つけた。 保健委員会として、生徒が食事によって心と体を整えられるように、次世代を生きていく高校生が、この先も輝いていけるために出来ることを考えた。

No.9	
発表タイトル	中山間地域の農産品を使った「天竜おにぎり」の開発・販売における目的と効果 —都市農村交流を視座として—
学校名	静岡県立天竜高等学校二俣校舎
グループ等の名称	天竜ラボ
参加生徒名 (学年)	松浦 昌汰(2年)、馬淵 百佳(2年)、谷高 安美(2年)、 若松 大真(2年)
発表内容の要旨	<p>本校天竜ラボは、生徒有志団体として中山間地域である天竜区内の地域の皆さんや団体、組織と地域連携、地域協働を行っている。</p> <p>今年度は、天竜の農産品を使った「天竜おにぎり」を開発し、9月24日浜松市中区のサザンクロス商店街で販売した。この商品は、生徒が考案したレシピを、天竜区の「道の駅くんま水車の里」、天竜区春野の「野生鳥獣肉加工施設ジビエ工房ジミート」、キッチンカー「ハワイ食堂LeaLea」三者に協力していただき商品化したものである。</p> <p>本発表によって、これからにおける中山間地域での多世代間交流の在り方と、その結果として、都市農村交流の可能性について提案したい。</p>

No.10	
発表タイトル	天竜を歩く
学校名	静岡県立天竜高等学校二俣校舎
グループ等の名称	地球探究Ⅰ
参加生徒名 (学年)	守屋 伶音(2年)、海野 亜美(2年)、乗松 ひな乃(2年)、 古村 成生(2年)、鈴木 琉晟(2年)、水野 風(2年)
発表内容の要旨	<p>地域探究Ⅰの授業において、健康維持のためのウォーキングルートの作成を行った。「シン・時代」を生きるうえで健康を維持することは重要な役割を果たす。その点、ウォーキングは有効な健康維持手法である。一方、単にウォーキングをするだけではなかなか継続するのが難しいのではないかと考えている。そこで、地域の公園や観光施設をめぐるルートを作成することで飽きの来ない楽しいウォーキングが実現できるのではないかと考えている。また、天竜・二俣地域の魅力を発信し、関係人口の創出にもつながるのではないかと考えている。</p>

No.11	
発表タイトル	熱音響システムのエネルギー効率を上げよう
学校名	静岡県立科学技術高等学校
グループ等の名称	科学技術高等学校 理数科
参加生徒名 (学年)	齋藤 圭(3年)、西井 千逸(3年)、古見 光平(3年)
発表内容の要旨	私たちの班は、どのようにしたら熱音響システムのエネルギー効率を上げられるのかという疑問の解明を試みた。熱音響冷却では音が大きいほど冷気が発生することを知ったので、まずは熱から音に変換する際、より大きな音を出すためにはどうしたら良いかいくつか実験を行った。試験官の経口、スタックの密度、スタックの位置を変化させ、その結果、スタックの位置によって音の大きさが変化することが確かめられた。ほかの実験からは規則性が見られなかった。

No.12	
発表タイトル	根粒の共生について
学校名	静岡県立科学技術高等学校
グループ等の名称	科学技術高等学校 理数科
参加生徒名 (学年)	後藤 陽真(3年)、原 伊吹(3年)、壬生 太郎(3年)
発表内容の要旨	高1の生物の授業で窒素固定する根粒菌の存在を知った。そこで、私たちは植物と共生する根粒菌について興味を持ち、どのような条件で共生するのかに疑問を持ち植物に根粒が付く条件について実験した。今回は低温のアルカリ性土壌で育ちやすいエンドウを実験に用いた。発芽させたエンドウの苗の条件を変え、環境が異なることと根粒が発生の有無、またどのような付き方をするかなどを調べた。

No.13	
発表タイトル	巴川水系の水生動物相
学校名	学校法人静岡理工科大学 静岡北中学校・高等学校
グループ等の名称	科学部 魚班
参加生徒名 (学年)	山村 悌公(1年)、植木 悠太(1年)、佐藤 侑磨(1年)、 久保井 優太(1年)、竹下 真那(1年)、増田 実結(1年)
発表内容の要旨	<p>本研究は、幼いころから魚釣りをして親しんできた河川の現状を調査したいと開始したものである。静岡市内を流れる巴川は2級河川であり、市内の山間部を起点とし、大きく蛇行しながら市街地を流れ、多くの支流を持っている。山間部には自然が残っており、麻機地区において絶滅危惧種Ⅱ類に指定されているホトケドジョウの生息状況や河底の水のきれいさを表す指標動物としてカワゲラの分布等、特定の生物については調査されている。しかし、生息する動物相の詳細なデータは巴川水系全体ではない。また、市街地を流れる巴川は市街地に接するため、外来種が放されやすいと考え、より詳しい巴川水系の動物相を調査し、外来種がどの程度市内で増加しているのか、調査をすることにした。そして、動物相を調査することによって、現在静岡市内で問題となっている外来生物の生息状況を把握し、自然環境保護に役立てようと考えている。また、調査を行っている川でゴミ拾い等を行い、生態系の保全の観点から地域清掃をも共に行うように心がけている。</p>

No.14	
発表タイトル	異なる波長の光を照射すると変化するミドリゾウリムシの光応答
学校名	学校法人静岡理工科大学 静岡北中学校・高等学校
グループ等の名称	科学部 ミドリゾウリムシ班
参加生徒名 (学年)	河俣 一真(2年)、浅井 涼太郎(1年)
発表内容の要旨	<p>ミドリゾウリムシは、細胞内に共生藻を持つ単細胞の原生動物である。科学部では、ミドリゾウリムシの光走性と白化現象に興味を持ち2018年度より研究を始めた。2018年度では、光走性に焦点を当て、光の強さによって行動に変化が見られるかを調べ、3,500lx付近では正の光走性が、8,600lx以上では負の光走性がみられ光の強さによって正の光走性から負の光走性へ行動が変化することが確認できた。2019年度では、ミドリゾウリムシの白化現象に光の条件が関係するのではないかと仮説を立て、白色光をあてた時の明暗条件、恒明条件、恒暗条件におけるミドリゾウリムシの白化の状態を調べ、恒暗条件で白化が起こるといわれていたが、恒明条件においてもクロレラ量の減少がみられることがわかった。2020年度からは光の波長が、ミドリゾウリムシの持つクロレラ量にどのような影響を与えるかを知りたいと考え、研究を行ってきた。葉緑体内の色素は、紫、青色、赤色の光を吸収することが分かっている。私たちは紫、青、黄、赤の波長の光下でミドリゾウリムシを培養し、細胞内のクロレラ量を計測、波長により保持するクロレラ量に変化するか比較を行った。ここまでの研究より、ミドリゾウリムシの増殖した量と1細胞内のクロレラの量に注目すると、赤色光では光合成をおこなっていない可能性が考えられた。</p>

No.15	
発表タイトル	瀬名地域の土壌無脊椎動物：土地利用状態と植生により変化する局所群集構造
学校名	学校法人静岡理科大学 静岡北中学校・高等学校
グループ等の名称	科学部 土壌班Ⅰ
参加生徒名 (学年)	細澤 直起(2年)、一瀬 光(2年)、豊平 悟史(1年)、 菅ヶ谷 真(1年)、佐藤 華江(1年)、森 優姫(1年)
発表内容の要旨	<p>私たちは授業で、分解者が生態系で重要な役割を果たしていることを学んだ。分解者には多くの土壌無脊椎動物が含まれる。そこで私たちは、土地利用の状況によって土壌無脊椎動物の数が異なるかどうか疑問に持ち、調べることにした。静岡市瀬名地域の4カ所から土壌サンプルを採取し、ツルグレン装置を用いて生物を捕獲し、生物の種を科レベルまで同定した。また、粒子径と水素イオン濃度指数を調べ、土壌の性質を調べた。その結果、土壌無脊椎動物は、枯れた植生が多い場所でより多くの種と個体数が存在することが示された。ササラダニ亜目(Oribatida)は、人為的な介入がほとんどなかったと思われる地点に多く生息していた。土壌水素イオン指数と土壌粒子径は土壌無脊椎動物相と直接的な関係はなかったが、植生と密接な関係があった。圃場管理など人為的な介入があったと思われる地点では、オリバティダの数が少なく、同じダニ目(Acari)の中でもトゲダニ亜目(Gamasida)の数がササラダニ亜目(Oribatida)よりも相対的に多かった。</p>

No.16	
発表タイトル	巴川水系長尾川堤防敷と麻機遊水地に生息する動物群衆
学校名	学校法人静岡理科大学 静岡北中学校・高等学校
グループ等の名称	科学部 土壌班Ⅱ
参加生徒名 (学年)	大橋 隆人(2年)、吉野 琉惟(2年)、山口 響輝(1年)、 吉川 芽吹(1年)、宮田 敦矢(1年)、嵯峨 壮太郎(1年)
発表内容の要旨	<p>河川の堤防敷は水による土砂の浸食や台風や、大雨による河川の水の増水で水による環境変化の頻度が高い。人間にとって川の堤防敷や遊水地は河川の氾濫による災害のリスクを避けるために非常に重要な場所であるが、同時に堤防敷や遊水地は土壌生物にとって生息しにくい非常に特異な環境を持つ場所ではないかと考えた。そして、私たちは水の中の生態系と陸上の生態系の間にあたり、どのような土壌無脊椎動物の群集構造が形成されるのか、また上流、中流、下流でそれらの群集構造の構成生物は異なるのかに興味を持った。そこで、私たちは陸上生態系において分解者の役割を担っている土壌無脊椎動物が、静岡市を流れる巴川水系の長尾川の堤防敷と麻機遊水地において、どのような群集構造を形成しているのかを調査した。その結果、長尾川下流においては特徴的にトビムシ目(Collembola)を多く確認することができた。</p>

No.17	
発表タイトル	牛乳によるカゼインプラスチックについて
学校名	学校法人静岡理工科大学 星陵高等学校
グループ等の名称	星陵ラボ フードサイエンス カゼインプラスチック班
参加生徒名 (学年)	安藤 花桜(2年)、大崎 熙夏(2年)、加藤 音(2年)、加藤 稟子(2年)、 神尾 しおり(2年)、鈴木 莉乃(2年)、稲垣 陽大(1年)、杉崎 理留(1年)
発表内容の要旨	<p>私達はコロナ禍で消費が落ち込んだことが原因で廃棄されてしまう牛乳を有効活用するために、牛乳によるカゼインプラスチックの研究を始めた。</p> <p>本発表では、私たちが行ったカゼインプラスチックの作成方法、耐熱性実験、耐火性実験の方法と結果を紹介する。</p>

No.18	
発表タイトル	カテキンの効能
学校名	学校法人静岡理工科大学 星陵高等学校
グループ等の名称	星陵ラボ フードサイエンス カテキン班
参加生徒名 (学年)	内田 暖乃(2年)、大槻 姫華(2年)、稲毛 栞奈(2年)、 後藤 美雪(1年)、村松 翠(1年)
発表内容の要旨	静岡県の特産品であるお茶とカテキンについて。

No.19	
発表タイトル	火薬ロケットの重心位置と飛行能力について
学校名	学校法人静岡理工科大学 星陵高等学校
グループ等の名称	星陵ラボ 航空工学班
参加生徒名 (学年)	吉田 勇輝(2年)、佐野 司馬(2年)、護持 瑛友(1年)、 小川 好葉(1年)、小川 伶菜(1年)、仁木 慶一郎(1年)
発表内容の要旨	A-3火薬で飛ぶモデルロケットについて、粘土のおもりで重心位置を変えた時、滞空時間と最高高度にどのような影響が与えられるか研究する。

会員証
SHIZUOKA
静岡県薬剤師会会員之章
Shizuoka Pharmaceutical Association

静岡県の薬局・薬剤師

処方せんから、健康相談まで。
「困った」や「分からない」があったら、
なんでも聞いてください。

近くにいる、というアンシンを。

公益社団法人 静岡県薬剤師会

県内4大学による特色ある取組の展示

(一般教育棟1階 2103講義室 後方壁面)

大学名	標題等	展示概要
静岡大学	静岡大学グローバル共創科学部の教育と研究	地球規模の課題でも地域の課題でもある複雑化した社会課題について、多様な人々が結集して多様な知識を総合した(「共創」で生まれる「総合知」の創出による)課題解決のために、本学部が展開する教育と研究について展示します。
浜松医科大学	浜松医科大学の先端医学研究の紹介	本学の研究の特色は光量子医学です。光や量子にはいろいろな特性があり、本学はそれを用いてアンメットメディカルニーズ(未解決で有効な診断法、治療法が望まれる疾患)の克服を目指しています。今回は本学の最新の研究成果を中心に紹介し、今後の展開を示します。
静岡県立大学	県大の薬草園ってどんなところ？	県立大学にある薬草園の紹介のほか、身近な草花が医薬品となることや、毒草も薬の原料になることを実物展示と併せてわかりやすく展示します。
静岡社会健康医学大学院大学	「知と人材の拠点」から社会を健康に	地域と連携し、住民の健康づくりと、予防医学研究に貢献する「静岡多目的コホート事業」及び医療ビッグデータを使った研究成果を地域社会に実装する「SKDB研究」の2つの取組を展示します。

(出展者の都合により展示内容が変更となる場合があります。)

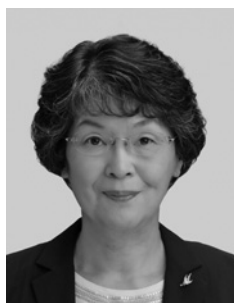
座 長



渡邊 順子 / 静岡県立大学 副学長 / 大学院 看護学研究科 特任教授

経 歴	1977	名古屋保健衛生大学衛生学部衛生看護学科卒業
	1977	名古屋保健衛生大学病院看護師
	1982	名古屋大学医学部附属病院看護師
	1997	中京女子大学大学院健康科学研究科修士課程修了（健康科学修士）
	1999	名古屋大学医学部保健学科看護学専攻助教授
	2002	米国ボストンカレッジ看護学部在外研究員（文部省）
	2004	大阪大学大学院医学系研究科博士後期課程修了（保健学博士）
	2008	聖隷クリストファー大学看護学部教授・学部長
	2018	静岡県立大学教授・大学院看護学研究科長
	2021	静岡県立大学特任教授・副学長

注）名古屋保健衛生大学は、藤田医科大学に改称 中京女子大学は、至学館大学に改称。



永倉 みゆき / 静岡県立大学短期大学部 学部長

経 歴	1981	お茶の水女子大学家政学部児童学科卒
		静岡県教育職員 小学校教諭
	1984	静岡大学教育学部附属幼稚園文部教官（～1995）
	1990	静岡大学大学院教育学研究科幼児教育専修修了（内地留学）
	1995～2004	静岡市立小学校・幼稚園教諭
	2004	常葉学園短期大学保育科専任講師
	2007	常葉学園短期大学保育科准教授
	2014	静岡県立大学短期大学部社会福祉学科教授
	2016	静岡県立大学短期大学部こども学科教授
	2016	静岡県立大学短期大学部学生部長（～2017）
	2022	静岡県立大学短期大学部部長（現在に至る）

受 賞 歴	1984	静岡市教職員実践研究論文	昭和58年度優秀賞
	2002	静岡市教職員実践研究論文	平成13年度優秀賞

コメンテーター



堂囿 俊彦 / 静岡大学グローバル共創科学部 教授

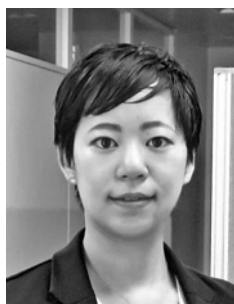
経歴	2004	東京都立大学人文科学研究科（博士課程）単位取得退学
	2004	東京大学大学院医学系研究科 特任助手
	2007	東京大学大学院医学系研究科 特任講師
	2008	静岡大学人文学部 准教授
	2018	静岡大学学術院人文社会科学領域 教授
	2020	静岡大学サステナビリティセンター センター長
	2023	静岡大学学術院グローバル共創科学領域 教授
		静岡大学イノベーション社会連携推進機構 副機構長



黒野 暢仁 / 浜松医科大学 総合人間科学講座 教授

経歴	2000	北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了
	2000	博士学位（北海道大学 博士（工学））授与
	2000	理化学研究所フロンティア研究システム 博士研究員
	2002	北海道大学大学院工学研究科 助手
	2007	北海道大学大学院工学研究科 助教
	2013	マックスプランク研究所（ドイツ ミュルハイム） 客員研究員
	2014	浜松医科大学医学部総合人間科学講座 准教授
	2023	浜松医科大学医学部総合人間科学講座 教授

コメンテーター



佐藤 洋子 / 静岡社会健康医学大学院大学 講師

経	歴	2009.3	東京医科歯科大学歯学部歯学科卒業
		2009.4	東京医科歯科大学歯学部付属病院歯科臨床研修医（2011.3まで）
		2015.3	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科（博士課程）修了
		2015.4	国立保健医療科学院研究情報支援研究センター研究員（任期付）（2017.3まで）
		2017.4	防衛医科大学校防衛医学研究センター医療工学研究部門助教（2020.3まで）
		2020.4	静岡県立総合病院リサーチサポートセンター統計解析室研究員（2021.3まで）
		2021.4	現職



江木 正浩 / 静岡県立大学食品栄養科学部 教授

経	歴	2000	大阪大学大学院薬学研究科 博士後期課程修了
		2000	博士学位（大阪大学、博士（薬学））授与
		2000	米国エモリー大学化学科 博士研究員
		2002	米国カンザス州立大学化学科 博士研究員
		2003	静岡県立大学薬学部 助手
		2006	静岡県立大学薬学部 講師
		2013	静岡県立大学薬学部 准教授
		2016	静岡県立大学食品栄養科学部 教授

■主催

静岡県立大学

○生涯健康サイエンスフェス運営委員会

委員長

渡邊 順子 静岡県立大学 副学長

副委員長

小林 公子 静岡県立大学 副学長

委員

眞鍋 敬 静岡県立大学 薬学研究院長

三浦 進司 静岡県立大学 食品栄養環境科学研究院長

澤田 敬人 静岡県立大学 国際関係学研究科長

竹下誠二郎 静岡県立大学 経営情報イノベーション研究科長

篁 宗一 静岡県立大学 看護学研究科長

永倉みゆき 静岡県立大学 短期大学部長

■協力

静岡大学、浜松医科大学、静岡社会健康医学大学院大学

■協賛団体・企業

株式会社伊藤園中央研究所

株式会社杏林堂薬局

公益社団法人静岡県薬剤師会

清和海運株式会社

株式会社テクノサイエンス

株式会社ホテイフーズコーポレーション

株式会社マルハチ村松

有限会社ラヴィアンサンテ

(五十音順)

生涯健康サイエンスフェスin静岡県立大学2023 プログラム兼発表要旨集

2023年11月発行

編集・製作 静岡県立大学（生涯健康サイエンスフェス運営委員会）

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52-1

TEL 054-264-5156

FAX 054-264-5299

発行 静岡県立大学（生涯健康サイエンスフェス運営委員会）

印刷所 池田屋印刷株式会社

落丁・乱丁はお取り替え致します。